

中学部 作業学習（縫工班） 学習指導案

| | | | |
|----------------------|---|-----------|-----|
| 日時 | 令和3年12月2日（木） 3・4校時 10：30～12：10 | 場所 | 縫工室 |
| 生徒 | 中学部1～3年生 計5名 | | |
| 指導者 | T1 菅原活 T2 菅千聡 | | |
| 育てたい自ら考え行動する力 | 作業学習の楽しさを味わいながら、よりよい製品作りに向けて意見を出し合ったり自分の役割に責任をもって最後まで取り組んだりする力 | | |
| 単元名 | 「地域でお箸袋を販売しよう～地域販売会編 パート1～」 | | |
| 単元の目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・工程が分かり、仕上がりをよくするための道具の使い方や技術を身に付ける。知 ・仕上がりを自分で判断したり、よりよくするための判断基準に気付いて製作に生かしたりする。思 ・地域販売会で買ってくれたお客さんに喜んでもらうという期待感をもちながら、箸袋を製作しようとする。学 <p style="text-align: center;">知…知識・技能、思…思考力・判断力・表現力等、学…学びに向かう力・人間性等</p> | | |
| 生徒と単元 | <p><実態> 本学習グループは1年生1名、2年生3名、3年生1名の計5名からなる。言葉で考えを伝えられる生徒から身振りや指差して伝える生徒がいる。また、不登校傾向で月に2回程度参加する生徒がいる。縫製の経験については、手縫いやミシンを体験したことのある生徒が多く、学習発表会で製品が完売した経験から、もっと作りたいと感じている生徒もいる。道具の基本的な使い方を教師と一緒に覚えたり、工程表を見ながら製作したりすることを通して、自分から作業に向かうことができるようになってきた。箸袋については、大まかな工程を覚えている生徒が多い。一方で、経験の少なさから初めての道具を使うことに不安感があったり、よりよくしていくための改善点に気付いたりすることに課題がある。また、気持ちに折り合いを付けて参加したりすることが難しく、最後までやり遂げる経験が少ない生徒もいる。</p> <p><単元のよさ> 生徒たちはこれまで、PTAや学習発表会での販売を経験しており、自分たちが作った箸袋がお客さんに届くことをイメージできている生徒が多い。そのため、地域販売会をゴールにすることで意見を出し合い、よりよい箸袋作りへの意欲が高まると考えた。本単元で製作する箸袋は、保護者へのアンケート結果を基に生徒間で相談の上、前単元から製作している。夏休み前までに生徒たちが経験したコースター製作と比較し、工程が複雑になるが実用性に長け、マイ箸を使用する人にとっては必需品となっている。工程ごとに役割分担しながら箸袋を製作することで、自分の工程に責任をもち最後まで取り組む姿につながりやすい。また、仕上がりをよりよくするための判断基準を「みんなの発見」としてまとめることで、学習が積み重なり、一人一人の学びの実感へとつなげることができる。作業学習を通して、始めは不安だったことができるようになった体験や、自分から友達や教師に考えを伝えたりする体験を重ねることで、箸袋を意欲的に作ったり自分の役割を最後まで取り組んだりする力が育つと考えた。</p> <p><目指す姿> 作業学習において楽しさを味わいながら、よりよい製品作りに向けて意見を出し合ったり自分の役割に責任をもって最後まで取り組んだりする力が育つことで、その他の学習活動においても自分の役割に自信をもって最後まで取り組んだり、自分の考えを伝えたりする体験を重ねる姿を目指したい。そして、高等部卒業後の働く意欲の基盤となる自信や意欲の高まりへとつなげていきたい。</p> | | |
| 指導上の留意点 | <ul style="list-style-type: none"> ・自分で担当する工程の仕上がりを判断することができるよう、チェックシートを提示したり判断基準について発問したりする。 ・生徒が自分で気付いたり、発信したりすることができるよう、状況に合わせて生徒からの報告や相談を待つ。 ・技術や完成度の向上を目指し、製作意欲を高めることができるよう、高等部縫工班の生徒や教師と一緒に作業しながら学び合う場を設定する。 | | |

指導計画（総時数28時間）

| 時数 | 小単元の学習内容 | 学習活動 | 評価 | | |
|------------------------------|---|--|----|---|---|
| | | | 主 | 対 | 深 |
| 1 | <ul style="list-style-type: none"> ・鹿りん祭での販売を振り返る。【学】 ・地域販売に向けて、目標個数を相談して決める。【主】 ・仕上りのよい箸袋について意見を伝え合う。【思】 | <ul style="list-style-type: none"> ・販売会の振り返り ・売り上げの計算 ・話し合い活動 | ○ | ○ | |
| 2～27 (本時 15・16 /27) | <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な道具の使い方が分かり、箸袋を製作する。【知】 ・担当する工程の仕上がりを見本を基に自分で判断する。【思】 ・地域販売会に向けて、目標個数を目標として箸袋を製作する。【学】 ・高等部作業学習の見学や高等部職員による指導を通して、よりよい製品作りのための技術や、製品作りの効率（作業速度）を向上するためのヒントを知る。【知】 ・製作工程で気付いたことや、高等部生徒・職員から学んだ技術を生かしながら製品作りをする。【思】 ・完成した製品を見てもらい、よいところや改善点についてインタビューをする。【学】 ・完成した製品を見て、よいところや工夫したところを伝える。【思】 | <ul style="list-style-type: none"> ・作業態度（挨拶、返事、報告、相談） ・接着芯の貼り付け、布の裁断、縫製、アイロン掛け ・高等部作業学習の見学 ・外部講師（高等部職員）による指導 ・話し合い活動 ・インタビュー | ○ | ○ | ○ |
| 28 | <ul style="list-style-type: none"> ・完成した製品を見比べながら、工夫したところや、完成度が向上したところなどを振り返る。【思・学】 | <ul style="list-style-type: none"> ・話し合い活動 ・振り返り | | ○ | ○ |

単元目標が達成できたかどうかを判断する個別の評価規準及び評価基準

| 氏名 (学年・性別) | 単元目標に対する個別の評価規準 | 評価基準 |
|---------------|---|------|
| A (1・女) | <ul style="list-style-type: none"> ・製作工程を覚えて、仕上がりをよくするための縫い方や印付けの技術を身に付けることができたか。【知】 ・仕上がりを自分で判断し、よりよくするための判断基準に気付くことができたか。【思】 ・地域販売会で買ってくれたお客さんに喜んでもらうという期待感をもちながら、自分から箸袋を製作しようとしたか。【主】 | |
| B (2・男) | <ul style="list-style-type: none"> ・製作工程が分かり、仕上がりをよくするための裁ちばさみやアイロンの使い方を身に付けたか。【知】 ・仕上がりをチェックシートを用いて自分で判断することができたか。【思】 ・地域販売会で販売することを楽しみにして、自分から箸袋を製作しようとしたか。【主】 | |
| C (2・女) | <ul style="list-style-type: none"> ・製作工程を覚えながら、仕上がりをよくするための縫い方や印付けの技術を身に付けることができたか。【知】 ・仕上がりを自分で判断し、教師の発問をきっかけとしてよりよくするための判断基準に気付くことができたか。【思】 ・地域販売会に販売することを楽しみにして、自分から箸袋を製作しようとしたか。【主】 | |
| D (2・男) | <ul style="list-style-type: none"> ・製作工程が分かり、仕上がりをよりよくするための印付けや印に合わせた布の裁断、クリップ止めの技術を身に付けたか。【知】 ・仕上がりを自分で判断し、よりよくするための判断基準に気付いて箸袋作りに生かすことができたか。【思】 ・地域販売会でたくさんのお客さんに喜んでもらいたいという期待感をもって、自分から箸袋を製作しようとしたか。【主】 | |
| E (3・男) | <ul style="list-style-type: none"> ・製作工程を覚えて、仕上がりをよくするための縫い方や印付けの技術を身に付けることができたか。【知】 ・仕上がりを自分で判断し、よりよくするための判断基準に気付いて箸袋作りに生かすことができたか。【思】 ・地域販売会で買ってくれたお客さんに喜んでもらうという期待感をもちながら、自分から箸袋を製作しようとしたか。【主】 | |

◎ほとんどの場面のできる(70%以上) ○できる時とできない時がある(40～70%)

△できない時が多く継続する必要がある(40%以下)

本時の計画

(1) 本時の目標

- ・担当する工程が分かり、前時までには気付いた「みんなの発見」を生かして箸袋を製作する。知
- ・仕上がりを自分で判断したり、教師の発問をきっかけに新しい「みんなの発見」を考え、気付いたりする。思

(2) 学習の過程

| 時間 | 学習活動 | 教師の働き掛け・手立て | 学びの姿 |
|---------------|--|---|--|
| 10:30 (10) | (日誌記入) 1 始めの会 | <ul style="list-style-type: none"> ・自分の目標に向かって取り組むことができるよう、個人目標を決める場を設定する。 ・自分から記入することができるよう、生徒の実態に応じた日誌を用意する。 ・意欲をもって取り組むことができるように、本単元での目標数を提示する。 ・本時の製品作りへ生かすことができるよう、前時までの「みんなの発見」の一部を取り上げて紹介する。 | |
| | | <p>めあて：お客さんが喜んでくれるように、「みんなの発見」を使って箸袋を製作する。</p> | |
| 10:40 (55) | 2 箸袋作り ・アイロン掛け ・布の裁断 ・接着芯の貼り付け ・クリップ止め ・ウッドビーズへの紐通し ・ミシンでの縫合 | <ul style="list-style-type: none"> ◎仕上がりを判断しながら作業することができるよう、「みんなの発見」を基にした発問や、「印に合わせて縫うと、どうなったか」という気付きのきっかけとなる発問をする。 ・A が安心して作業することができるよう、T2 が近くで作業し、必要に応じて質問に答えたり、報告や相談ができた際に具体的に称賛したりする。 ◎B が仕上がりを判断しながら作業を進めることができるよう、視覚的に分かりやすいチェックシートを提示し、教師と一緒に指差して仕上がりを判断する場を設定する。 ・C が安心して作業することができるよう、活動量を相談しながら決める場を設定する。 ◎D (が仕上がりを自分で判断することができるよう、判断基準を視覚的に提示する。 ◎E が自分で仕上がりを判断することができるよう、判断基準を視覚的に提示したり、「みんなの発見」を基に発問したりする。 | <p>主：自分の目標に向かって自ら作業に取り組む姿</p> <p>深：仕上がりを自分で判断したり、教師の発問をきっかけに新しい判断基準を考えたりする姿</p> |
| 11:35 (20) | 3 片付け・掃除 | <ul style="list-style-type: none"> ・自分から掃除をすることができるよう、係分担を決め、毎時間同じ係で掃除を行う。 | |
| 11:55 (15) | 4 振り返り ・日誌記入 ・全体での振り返り | <ul style="list-style-type: none"> ・目標について振り返り、自己評価することができるよう、日誌記入の場を設定する。 ・友達の頑張りにも目を向けることができるよう、作業中の様子を写真や動画で振り返る場を設定する。 ・作業中の道具の使い方や道具の選び方、判断基準等について、気付きや学びを共有することができるよう、作業中の一場面を取り上げ、「みんなの発見」と関連付けて発問する。 | <p>主：作業を振り返り気付いたことや頑張ったことを整理する姿</p> <p>対：作業中の様子や完成した製品を見合うことで、友達の頑張りや「みんなの発見」を伝える姿</p> |
| 12:10 | 5 あいさつ | | |

本時の目標が達成できたかどうかを判断する個別の評価規準

| 氏名 (学年・性別) | 本時の目標に対する個別の評価規準 |
|---------------|---|
| A (1・女) | <ul style="list-style-type: none"> ・製作工程を覚えながら、チャコペンの印やミシンに付いている印を手掛かりにして直線縫いができたか。 知 ・教師の発問をきっかけにして、仕上がりを判断したり、よりよくするための判断基準を考えたりすることができたか。 思 |
| B (2・男) | <ul style="list-style-type: none"> ・担当する工程が分かり、前時までの「みんなの発見」から本時で生かすことを1つ選んで布の裁断やアイロン掛けをしたか。 知 ・チェックシートを用いて教師と一緒に仕上がりを判断したか。 思 |
| C (2・女) | <ul style="list-style-type: none"> ・製作工程表を見て、工程を覚えながら箸袋を製作したか。 知 ・教師の発問をきっかけにして、仕上がりを判断したか。 思 |
| D (2・男) | <ul style="list-style-type: none"> ・担当する工程が分かり、前時までの「みんなの発見」から本時で生かすことを1～2つ選んで印付けや印に合わせた布の裁断をしたか。 知 ・仕上がりを自分で判断し、教師の発問をきっかけにしてよりよくするための判断基準を考えることができたか。 思 |
| E (3・男) | <ul style="list-style-type: none"> ・製作工程を覚えながら、チャコペンの印を手掛かりにして直線縫いができたか。 知 ・教師の発問をきっかけにして、仕上がりを判断したり、よりよくするための判断基準を考え、気付いたりしたか。 思 |

本時の目標達成のための個別の手立て

| 氏名 | 手立て |
|----|--|
| A | <ul style="list-style-type: none"> ・製作工程を覚えることができるよう、工程表を手元に提示する。 ・印に合わせて直線縫いができるよう、布を送る手掛かりとなる印をミシンに付ける。 ・判断基準が分かるよう、「線に合わせて縫っているか」「返し縫いはされているか」など具体的に発問する。 ・よりよくするための判断基準に気付くことができるよう、「印に合わせて縫うと、どうなったか」「針を慎重に落として縫い始めると、どうなったか」などの発問をする。 |
| B | <ul style="list-style-type: none"> ・担当する工程が分かるよう、写真付きの工程表を提示する。 ・前時までの「みんなの発見」を生かして箸袋を製作することができるよう、本時で使う「みんなの発見」を決める場を設定する。 ・仕上がりの良否が分かって箸袋作りをすることができるよう、チェックシートを提示する。 |
| C | <ul style="list-style-type: none"> ・工程を覚えることができるよう、教師と一緒に工程表を見ながら箸袋作りをする場を設定する。 ・判断基準が分かるよう、「印に合わせて縫われているか」「角が出ているか」など具体的に発問する。 |
| D | <ul style="list-style-type: none"> ・担当する工程が分かるよう、写真付きの工程表を提示する。 ・前時までの「みんなの発見」を生かして箸袋作りをすることができるよう、本時で使う「みんなの発見」を決める場を設定する。 ・判断基準が分かるよう、「型紙に合わせて直線が書かれているか」「接着芯で剥がれている部分はないか」など発問したり、視覚的に提示したりする。 ・よりよくするための判断基準に気付くことができるよう、「チャコペンの色は何色を使うと見えやすいか」などの発問をする。 |
| E | <ul style="list-style-type: none"> ・製作工程を覚えることができるよう、工程表を手元に提示する。 ・仕上がりを自分で判断することができるよう、見本や判断基準を具体的に提示する。 ・よりよくするための判断基準に気付くことができるよう、「印に合わせて縫うと、どうなったか」「針を慎重に落としながら角を縫うと、どうなったか」などの発問をする。 |